

## 保育者を目指す学生へのピアノ指導法の一考察

鈴木 由美子\*

### A Study on Piano Teaching Methods for Students Wishing to Be Nurseries and Kindergarten Teachers

Yumiko SUZUKI

#### 1. はじめに

保育の現場でのピアノの重要性は広く認識されており、保育者養成の大学・短期大学での教育カリキュラムの中でもピアノの指導法は大きな重みを持っている。それらの指導法についても、研究がなされており<sup>1)、3)</sup>、その重要性は研究者の間でも広く認識されている。小学校教員養成課程のピアノ教育についても同様である<sup>6)</sup>。近年、幼少期からピアノのレッスンを受ける子供が減少しており<sup>2)、7)</sup>、保育者養成の大学・短期大学に入学する学生も、入学前にピアノのレッスンを受けた経験が皆無かごく少ない者が増加している。これらの入学前のピアノのレッスン経験に差がある学生達が、学生時代に受けた大学・短期大学でのピアノの指導法をどのように感じ、それが保育の現場でどのように生かされているのかを定量的に把握することは、今後のピアノ指導法の改善に重要であると考え、アンケート調査を行った。

アンケートは保育現場で働いている10名に依頼し、回収率は100%であった。アンケートは、4択式で回答する項目と、複数選択の項目、自由記述の項目とがある。4択式の回答については、相関係数を計算した。アンケートは入学前、保育の現場について、学生時代と3つの部分に分かれており、その部分ごとに相関関係による因果関係を考察した。

相関係数とは、2つの項目に関連性があるかどうかを示す統計的な指標で、-1から1の値をとる。1に近いほど、正の相関、すなわち、一方が大きくなれば、他方も大きくなるという関係があり、-1に近いほど、一方が大きくなれば、他方は小さくなるという関係がある。相関係数が0に近ければ、2つの項目は関係がないことを示している。相関係数の絶対値が、0.6程度であれば、その2つの項目に関係があると考えられている。一般には、相関係数は因果関係を示すものとは言えないが、アンケートの3つの部分の間には、入学前、学生時代、現在の保育現場と時間的な順序があるので、これらの間については因果関係があるものと考えられる。

第2節ではアンケートの詳細について、第3節ではアンケートの分析について、第4節では大学でのピアノ指導法へのフィードバック、第5節では、まとめと今後の課題について述べる。

---

\* 非常勤講師

## 2. 保育者の現状と学生時代およびそれ以前のピアノ経験についてのアンケート

保育者がピアノを保育の現場でどのように活用しているか、およびその現場に必要なピアノ演奏の得手不得手が、学生時代のピアノ教育、さらに、大学・短期大学入学以前のピアノ教育がどのような関係にあるかを調査するために表1のようなアンケートを行った。アンケートの対象者は、現在、保育の現場で働いている10名の常勤、非常勤の保母、幼稚園教員とした。年齢は、20代4名、30代3名、40代3名、保育者としての経験年数は、1年から18年までの範囲である。経験年数の平均は7.9年である。性別は全員が女性である。アンケートの期間は、2016年7月23日から8月1日までである。アンケート対象者の居住地は日進市西部、名古屋市東部であり、勤務地は、日進市、長久手市である。保育の現場では、ピアノの使い方について、地域によって大きな差異はなく<sup>4)、5)</sup>、今回のアンケートのように狭い地域の保育園・幼稚園についてのものでも、ある程度全国的な傾向がつかめると判断した。また、アンケートの対象者の出身大学・短期大学は中部地区にあり、保育者養成のピアノ教育のカリキュラムに大きな差異はないことを考えると、学生時代の教育についてのアンケートについても同様なことが言える。

表1 アンケートの項目

- |  |         |
|--|---------|
| 1. あなたの性別を教えてください。(ア)女性 (イ)男性              |         |
| 2. あなたの年齢を教えてください。                         | _____ 歳 |
| 3. ピアノを習い始めた年齢を教えてください。                    | _____ 歳 |
| 4. 入学前にピアノを習っていた年数を教えてください。                | _____ 年 |
| 5. 保育者としての経験年数は何年ですか。中断がある場合は通算年数を教えてください。 | _____ 年 |
| 6. 保育現場でどのような活動にピアノを使用していますか。(自由記述)        |         |

### 保育現場でピアノを弾くこと、歌を歌うことについてお聞きします

- ピアノを弾くことは楽しいですか。  
(ア) 楽しい (イ) まあまあ楽しい (ウ) あまり楽しくない (エ) 楽しめない
- ピアノを弾くことは得意ですか。  
(ア) 得意である (イ) まあまあ得意である (ウ) あまり得意でない (エ) 得意でない
- 楽譜を読むことは得意ですか。  
(ア) 得意である (イ) まあまあ得意である (ウ) あまり得意でない (エ) 得意でない
- 歌を歌うことは得意ですか。  
(ア) 得意である (イ) まあまあ得意である (ウ) あまり得意でない (エ) 得意でない
- 弾き歌いの模範演奏は得意ですか。  
(ア) 得意である (イ) まあまあ得意である (ウ) あまり得意でない (エ) 得意でない
- 合唱や合奏の伴奏は得意ですか。  
(ア) 得意である (イ) まあまあ得意である (ウ) あまり得意でない (エ) 得意でない
- 曲想を感じさせる伴奏を弾くことが得意ですか。  
(ア) 得意である (イ) まあまあ得意である (ウ) あまり得意でない (エ) 得意でない
- ピアノを弾きながら次の歌詞をタイミングよく伝えることができますか。  
(ア) できる (イ) まあまあできる (ウ) あまりできない (エ) できない

### 在学中のピアノに関する講義についてお聞きします。

15. ピアノの練習は好きでしたか。  
(ア) 好きだった (イ) まあまあ好きだった (ウ) あまり好きでなかった (エ) 好きでなかった
16. ピアノは得意でしたか。  
(ア) 得意だった (イ) まあまあ得意だった (ウ) あまり得意でなかった (エ) 得意でなかった
17. ピアノを弾くことは楽しかったですか。  
(ア) 楽しかった (イ) まあまあ楽しかった (ウ) あまり楽しくなかった (エ) 楽しくなかった
18. ピアノ曲 (バイエル、ブルグミュラー、ソナタなど) は得意でしたか。  
(ア) 得意だった (イ) まあまあ得意だった (ウ) あまり得意でなかった (エ) 得意でなかった
19. 弾き歌いは得意でしたか。  
(ア) 得意だった (イ) まあまあ得意だった (ウ) あまり得意でなかった (エ) 得意でなかった
20. 楽譜を読むことは得意でしたか。  
(ア) 得意だった (イ) まあまあ得意だった (ウ) あまり得意でなかった (エ) 得意でなかった
21. 音楽理論の講義は理解できましたか。  
(ア) 理解できた (イ) まあまあ理解できた (ウ) あまり理解できなかった (エ) 理解できなかった
22. ピアノのレッスンを熱心に取り組みましたか。  
(ア) 熱心に取り組んだ (イ) まあまあ熱心に取り組んだ (ウ) あまり熱心に取り組まなかった (エ) 熱心に取り組まなかった
23. 大学・短期大学の音楽に関する講義を総合的に見たときの満足度はどの程度ですか。  
(ア) 満足 (イ) まあまあ満足 (ウ) やや不満 (エ) 不満
24. 在学中に身につけておきたかった演奏技能は何ですか (複数回答可)。  
(ア) 初見視奏 (イ) 曲の伴奏付け (ウ) 保育の曲のレパートリーを増やす (エ) リズム練習  
(オ) その他 \_\_\_\_\_
25. 在学中に身につけたことのうち保育現場で役立っている内容は何ですか (複数回答可)。  
(ア) 音楽理論 (イ) ピアノ自由曲 (バイエル、ブルグミュラー、ソナチネなど) (ウ) 声楽 (エ) 弾き歌い (オ) 器楽合奏 (カ) 楽器 (キ) 劇を入れた音楽表現 (ク) その他 \_\_\_\_\_
26. 在学中に学んだことのうち保育現場で役立っていない内容は何ですか (複数回答可)。  
(ア) 音楽理論 (イ) ピアノ自由曲 (バイエル、ブルグミュラー、ソナチネなど) (ウ) 声楽 (エ) 弾き歌い (オ) 器楽合奏 (カ) 楽器 (キ) 劇を入れた音楽表現 (ク) その他 \_\_\_\_\_

アンケートの項目のうち、1～6はアンケート対象者の基本情報を問うものである。これを項目グループ1と呼ぶことにする。項目グループ1では、大学・短期大学入学前のピアノ経験、保育者としての経験年数も聞いている。7～14は保育現場でのピアノ、弾き歌いについて問うものであり、これを項目グループ2と呼ぶことにする。15～26は学生時代のピアノの講義等に関するものであり、これを項目グループ3と呼ぶことにする。

アンケートの対象者のうち、3名について、アンケートを補完するインタビューを行った。うち1名については電話でインタビューを行った。対面のインタビューは2016年7月29日と8月1日に、電話でのインタビューは7月25日に行った。そこでは、アンケートの回答について、より詳しい聞き取りを行った。対面でのインタビューは1時間、電話でのインタビューは20分程度の時間である。

アンケートの意図は、ピアノの得手不得手・好き嫌いを保育現場と学生時代との両方について調べることで、大学でのピアノ教育が保育者となった場合にさらに役立つための改善点を浮き彫りにすることである。さらに、入学以前のピアノ教育によって、大学でのピアノ教育の受け止められ方が異なるのか、それが保育の現場でどのように影響しているかを調べることで、入学前のピアノのレッスンを受けたかどうかで学生への教育方法を考えるべきかを調査することである。インタビューは、大学・短期大学入学前にピアノのレッスンをほとんど受けていな

い保育者2名と入学前に十分なピアノのレッスンを受けた1名を選んで行った。

以上のような意図で行ったアンケートとインタビューについて、次節で分析を行う。

### 3. アンケートの分析とインタビューによる補完

アンケートを分析するにあたって、以下の点を考慮した。まず第1に、保育の現場すなわち現状と、学生時代、それ以前とは時間的に順序がある。従って、項目グループ1、2、3の回答の間に相関があれば、時間的に先行している項目と、そのあとの項目とは因果関係があると考えた。もう一つ考慮しなくてはならないのは、相関がある項目に、別に介在している要因があるかどうかであるが、アンケートの項目がすべてピアノに関する事なので、第3の要因、例えば家庭の経済状態などが介在している余地はないものと考えられる。したがって、アンケート項目間に相関があれば、それは因果関係を示唆しているものと考えた。

アンケートの項目グループ1の項目間の相関係数を計算したところ、表2のようになった。

表2 アンケートの項目グループ1の項目間の相関係数

	項目3	項目4	項目5
項目2	-0.4472	0.57255	0.46149
項目3		-0.6741	0.10986
項目4			0.17925

これから、以下のようなことが考えられる。項目2と項目3、4、5との相関が比較的高く、項目5と項目3、4との相関は低い。項目2、3、4、5を再掲する。

2. あなたの年齢を教えてください。
3. ピアノを習い始めた年齢を教えてください。
4. 入学前にピアノを習っていた年数を教えてください。
5. 保育者としての経験年数は何年ですか。中断がある場合は通算年数を教えてください。

すなわち、年齢が高いほどピアノを習い始めた年齢が低く、入学前にピアノを習っていた年数が多いことがわかる。年齢が高いほど保育者の経験年数が多いのは当然のことである。また、ピアノを習い始めた年齢やピアノを習っていた年数に関わりなく、保育者になっていることを示唆している。これらのことから、近年は大学・短期大学入学前にピアノを習っていたかどうかに関わらず、保育者になる傾向が強まっていることが示唆される。

項目6は、どの保育現場でも、1日の節目、保育の日常でピアノを利用しており、その重要性を再認識させるものであった。具体的には、朝の挨拶、昼食 (いただきます)、帰りの挨拶、今月の歌などの日常の歌の時間、発表会、お誕生日会などの行事、合奏、劇、オペレッタなどの行事、リズム運動、ゲーム遊び、表現遊びなどの遊びの時間、動作に対する合図 (立つ、座る)、時計の役目 (準備、片付け) などがあげられた。

次に、アンケートの項目グループ1の以下の項目と項目グループ3の相関係数を計算したところ、以下ようになった。

表3 アンケートの項目グループ1と項目グループ3の相関係数

	項目15	項目16	項目17	項目18	項目19	項目20	項目21	項目22	項目23
項目2	0.3788	0.3087	0.1965	0.4437	0.2408	0.4437	0.4337	0.0259	0.5012
項目3	-0.497	-0.485	-0.341	-0.389	-0.136	-0.389	-0.164	0.4048	-0.035
項目4	0.6657	0.6043	0.652	0.3809	0.7433	0.3809	0.3682	-0.014	0.4498
項目5	-0.267	-0.33	-0.202	-0.27	0.0713	-0.27	0.1941	0.2803	0.4235

以上のように、項目4と項目15、16、17、19との相関が高い。項目15、16、17、19は以下のとおりである。

15. ピアノの練習は好きでしたか。
16. ピアノは得意でしたか。
17. ピアノを弾くことは楽しかったですか。
19. 弾き歌いは得意でしたか。

これから、以下のようなことが考えられる。入学前にピアノのレッスンを受けていた年数が長いほど、学生時代のピアノの練習が好きで、楽しく、得意であった。また、弾き歌いも得意であった。これらのことは、保育者のためのピアノ教育を行っている者にとっては、感覚的には認識されていたことであるが、実際にアンケートで確認された。

さらに、項目2と項目18、20、21、23の相関が比較的高い。項目18、20、21、23は以下のようである。

18. ピアノ曲（バイエル、ブルグミュラー、ソナタなど）は得意でしたか。
20. 楽譜を読むことは得意でしたか。
21. 音楽理論の講義は理解できましたか。
23. 大学・短期大学の音楽に関する講義を総合的に見たときの満足度はどの程度ですか。

これから、年齢が高いほど、ピアノ曲が得意で、また楽譜を読み、音楽理論の講義も理解でき、大学・短期大学での音楽の講義に対する満足度が高い傾向があることがわかる。この傾向は相関があると断言できるほどには明確でないが、一つの可能性としては、40代は団塊の世代の2世で、この年代の人口が多く、比較的高校時代の成績の良い学生が保育者になっていることが考えられる。これは今後詳細な研究を待たなくてはならない。

アンケートの項目グループ1の以下の項目と項目グループ2の相関係数を計算したところ、以下のようになった。

表4 アンケートの項目グループ1と項目グループ2の相関係数

	項目7	項目8	項目9	項目10	項目11	項目12	項目13	項目14
項目2	0.5825	0.3331	0.5683	0.3561	0.6161	0.5024	0.5763	0.3205
項目3	-0.047	-0.463	-0.468	-0.607	-0.173	-0.757	-0.522	0.2552
項目4	0.2726	0.6207	0.3885	0.6596	0.5115	0.7221	0.7742	-0.058
項目5	0.325	-0.316	-0.013	-0.052	0.5025	-0.104	-0.005	0.5662

項目2と項目7、9、11、12、13との相関が高い。項目4と項目8、10、11、13との相関が高い。また、項目5と項目11、14との相関が高い。項目8、9、10、11、12、13を再掲する。

7. ピアノを弾くことは楽しいですか。

8. ピアノを弾くことは得意ですか。
9. 楽譜を読むことは得意ですか。
10. 歌を歌うことは得意ですか。
11. 弾き歌いの模範演奏は得意ですか。
12. 合唱や合奏の伴奏は得意ですか。
13. 曲想を感じさせる伴奏を弾くことが得意ですか。

これから、以下のようなことが考えられる。年齢が高いほど、ピアノを弾くことが楽しく、楽譜を読むこと、弾き歌いが得意で、伴奏も得意である。また、入学前にピアノを習っていた年数が長いほど、ピアノを弾くことは楽しく、歌を歌うこと、弾き歌い、曲想を感じさせる伴奏が得意である。年齢が高いほど入学前にピアノを習っていた年数が長いので、これらは、ほぼ同じことを示している。ただ、弾き歌いに関しては、保育の経験年数との相関も高いので、保育の現場での経験年数が弾き歌いを得意にさせているとも考えられる。保育の経験年数は、先に述べたように、弾き歌いと次の歌詞をタイミングよく伝えるスキルを向上させていると考えられる。

アンケートの項目グループ2の以下の項目と項目グループ3の相関係数を計算したところ、以下のようになった。

表5 アンケートの項目グループ2と項目グループ3の相関係数

	項目15	項目16	項目17	項目18	項目19	項目20	項目21	項目22	項目23
項目7	0.3514	0.5076	0.4324	0.638	0.4032	0.638	0.678	0.1562	0.4685
項目8	0.791	0.9584	0.7618	0.9097	0.6588	0.9097	0.633	-0.159	0.1021
項目9	0.5723	0.6603	0.5204	0.8605	0.1788	0.8605	0.6628	0.0523	0.2046
項目10	0.7365	0.7356	0.8407	0.7294	0.4226	0.7294	0.812	0.1455	0.3273
項目11	0.2857	0.3268	0.3612	0.3714	0.5533	0.3714	0.443	0.2063	0.5714
項目12	0.6705	0.7956	0.7034	0.7826	0.4946	0.7826	0.6534	-0.181	0.2873
項目13	0.8018	0.8365	0.6113	0.7941	0.6901	0.7941	0.4972	-0.089	0.1336
項目14	-0.063	0.0602	-0.211	0.0928	0.1614	0.0928	0	-0.028	0

項目グループ2と項目グループ3とは、時間的に、項目グループ3が先になっているので、因果関係として、項目グループ3の各項目が項目グループ2のどの項目の原因になっているかを項目ごとに相関係数の高いものを中心に調べる。

項目15から18までは、ピアノの練習が好きだったか、得意だったか、楽しかったか、またピアノ曲は得意だったかを尋ねているので、項目7から14までとの相関係数はほぼ同じ傾向を示している。これらのほぼすべての項目と相関が高いので、学生時代のピアノの教育が保育現場で非常に重要であることを示している。項目11は比較的相関が低く、項目14は相関がない。項目11は弾き歌いについてであり、学生時代のピアノ教育は弾き歌いあまり貢献していない可能性が指摘できる。また、項目14は、ピアノを弾きながら次の歌詞をタイミングよく伝えることができるかどうかであり、学生時代の教育よりは、保育現場での経験によって得意になっていくことと考えられる。このことは、その他の項目との相関が低いことから言える。

項目19は弾き歌いが学生時代に得意だったかどうかであり、項目8、11、13との相関が高い。すなわち、学生時代に弾き歌いが得意だった人は、保育の現場でピアノが得意で、弾き歌いも

得意、曲想を感じさせる伴奏も得意であることがわかる。これは一見前述の知見に矛盾しているようであるが、弾き歌いが得意だった学生は、入学前のピアノのレッスンの経験が長かったことを考えると、大学でのピアノ教育に関係なく、入学前のピアノのレッスンの経験が弾き歌いが得意かどうか大きな影響を持っていると考えられる。

項目20、21は、楽譜が読めるかどうか、音楽理論が理解できたかどうかを尋ねるもので、ほぼ同じ傾向の相関を持っている。これらの項目は、項目11、すなわち弾き歌いが得意かどうか以外は高い相関を持っており、楽譜が読めること、音楽理論を理解することが保育の現場でのピアノの活用が得意になるかどうかの重要な要素であることを示唆している。

項目22はピアノに熱心に取り組んだかどうかを聞くもので、これは項目グループ2のどの項目とも相関はない。項目23は学生時代の満足度を聞くもので、これも項目11以外は高い相関はない。項目11は弾き歌いに関するもので、項目23は、学生時代の満足度という漠然としたものではあるが、相関は比較的高い。

以上がアンケートのうち、4択で聞いた結果の分析である。ここからは、複数回答可能な項目24、25、26について分析を行う。

項目24を再掲する。

24. 在学中に身につけておきたかった演奏技能は何ですか（複数回答可）。

（ア）初見視奏（イ）曲の伴奏付け（ウ）保育の曲のレパートリーを増やす（エ）リズム練習（オ）その他  
 回答は、（ア）3名、（イ）3名、（ウ）5名、（エ）2名、その他としては、作曲技術、コード進行、歌を教える方法の3点があげられた。現場では保育の曲のレパートリーを増やすことが求められていることがわかる。

項目25、26を再掲する。

25. 在学中に身につけたことのうち保育現場で役立っている内容は何ですか（複数回答可）。

（ア）音楽理論（イ）ピアノ自由曲（バイエル、ブルグミュラー、ソナチネなど）（ウ）声楽（エ）弾き歌い（オ）器楽合奏（カ）楽器（キ）劇を入れた音楽表現（ク）その他 \_\_\_\_\_

26. 在学中に学んだことのうち保育現場で役立っていない内容は何ですか（複数回答可）。

（ア）音楽理論（イ）ピアノ自由曲（バイエル、ブルグミュラー、ソナチネなど）（ウ）声楽（エ）弾き歌い（オ）器楽合奏（カ）楽器（キ）劇を入れた音楽表現（ク）その他 \_\_\_\_\_

回答は、役立っているのは、（エ）弾き歌いが8名で最も多く、役立っていないものは（ア）音楽理論が7名で最も多かった。

最後にインタビューによる知見を示す。インタビューは入学前にピアノの教育を受けたことがないか少ない2名（1）、（2）と、入学前にピアノの教育を受けた1人（3）に行った。以下がインタビュー内容の概要である。

- （1）大学に入って初めてピアノのレッスンを受けた。学生時代は単位修得のため、資格取得のためと、自分とピアノの戦いだった。弾けるようになれば達成感があり楽しいと思えたが時間がかかった。現場では子供たちが楽しんで歌ってくれる姿で楽しいなあと日々感じている。子供たちはどんな伴奏でも歌ってくれるので自分なりに伴奏を工夫してとまらないように楽しくピアノを弾いている。工夫は、コードにしたり、伴奏の音を少し省いたりなどで、コードも長年やっているとできるようになった。
- （2）学生時代はレッスンで苦勞した。歌とピアノを同時に行う弾き歌いが難しかった。現場では新しい曲になると楽譜を読むことや、リズムがあっているか自信がなかったが、何年もやると上手くなっていくのを感じた。子供が体で表現するリトミックの伴奏は、音

楽を聞けばそういう動きがしたくなるようなピアノでの表現が必要になる。ピアノの音は簡単だが、動きを想像させるような表現をピアノの音で出すのがむずかしい。

- (3) 現場でピアノに関して困ったことはない。学生時代も困った経験はない。もっと勉強したくて興味を持ったリトミックを習いに行き、さらに技術や表現の幅を広げた。

以上のインタビューから入学前にピアノのレッスンを受けた経験の有無で学生時代、また保育の現場でもピアノに関して大きな差があることがわかる。特に入学前にピアノのレッスンを受けた経験がないと、学生時代にピアノのスキルを身に付けるために多くの努力と時間を費やさなくてはいけなかったことがわかる。

アンケートとインタビューによって、以下のような知見が得られた。

- (I) 保育の現場では、ピアノの果たす役割は非常に大きい。
- (II) 保育の現場でも日々ピアノを上達することができる。
- (III) 入学前にピアノのレッスンを受けた経験がある人ほど、保育の現場でのピアノの活用を得意としている
- (IV) 大学・短期大学でピアノに関する教育について、得意であった人ほど、保育の現場でのピアノの活用を得意としている
- (V) 入学前にピアノのレッスンを受けた経験がある人ほど、大学・短期大学でのピアノに関する教育について得意であった
- (VI) 入学前にピアノのレッスンを受けた人は減少傾向にある。
- (VII) 保育の現場で役立つ学生時代の項目は弾き歌いと考えている人が多い
- (VIII) 大学・短期大学時代に楽譜が読め、音楽理論を理解している人ほど、保育の現場でピアノの活用が得意である

#### 4. 大学でのピアノ指導法へのフィードバック

前節までの知見を踏まえて、大学でのピアノ指導法について考察する。

入学前にピアノのレッスンを受けた経験の有無によって、特に学生時代のピアノに関する指導法およびそのカリキュラムを考えるべきである。保育の現場では、弾き歌いが重要であるが、弾き歌いは、ピアノのスキルがある程度ないと、非常に困難になる。学生時代に弾き歌いが得意、もしくはやや得意になる水準になるまで引き上げるには、できれば低学年のうちにピアノのスキルをある程度つけさせる必要がある。弾き歌いは、ピアノのスキルの延長にあることがわかったので、特別な授業が必要である。保育の現場の伴奏は、保育現場での経験で得意になるので、基本的なピアノのスキルを身に付ければよい。音楽理論は、多くの人が学生時代に役に立たなかったと回答しているが、一方で、音楽理論を理解している人は、保育の現場でのピアノの活用が得意になっており、音楽理論は、本人たちの認識とは裏腹に、保育の現場で基礎的な素養として役立つと考えられる。入学前にピアノのレッスンを受けた経験の少ない学生には、ピアノのスキルを習得させるとともに、音楽理論を十分に学ばせることで、保育の現場での息の長い活躍をサポートすることになると考えられる。



## 5. おわりに

保育者を目指す学生へのピアノ教育の改善のために保育現場で実際に働いている保育者にアンケートを行った。アンケートの対象者のうち、3名にインタビューを行った。アンケートの統計的な分析、インタビューの分析の結果、入学前のピアノのレッスン経験が入学後、その後の保育の現場でのピアノの活用に大きな影響を与えていることがわかった。また、大学でのピアノの指導法について、入学前のレッスン経験によって、指導法を工夫する必要があることについて考察した。

今回のアンケート対象者の人数は10名と少ないので、得られた結果はあくまで事前調査の域を超えるものではない。しかしながら、事前調査とはいえ、示唆に富んだ知見が得られた。今後、アンケートの対象者の人数を増やして今回得られた知見を確認することによってアンケート結果の精度を高め、得られた知見を活用することが考えられる。これは今後の課題としたい。

## 要 約

保育の現場でのピアノの重要性は広く認識されており、保育者養成の大学・短期大学での教育カリキュラムの中でもピアノの指導法は大きな重みを持っている。それらの指導法の研究の重要性は研究者の間でも広く認識されている。近年、幼少期からピアノのレッスンを受ける子供が減少しており、保育者養成の大学・短期大学に入学する学生も、入学前にピアノのレッスンを受けた経験が皆無かごく少ない者が増加している。このように入学前のレッスン経験に差がある学生が、学生時代に受けた大学・短期大学のピアノの指導法をどのように感じ、それが保育の現場でどのように生かされているのかを定量的に把握するためにアンケート調査を行った。

アンケートは保育現場で働いている10名に依頼した。アンケートは、4択式で回答する項目と、複数選択の項目、自由記述の項目とがある。4択式の回答については、相関係数を計算した。アンケートは入学前、保育の現場について、学生時代と3つの部分に分かれており、その部分ごとに相関関係による因果関係を考察した。さらに、アンケート対象者のうち3名にインタビューを行った。

アンケートの統計的な分析とインタビューの分析の結果、入学前のピアノのレッスン経験が入学後、その後の保育の現場でのピアノの活用に大きな影響を与えていることがわかった。また、大学でのピアノの指導法について、入学前のレッスン経験によって、指導法を工夫する必要があることについて考察した。

## 謝 辞

アンケートとインタビューに協力してくれた保育者の皆様に感謝します。アンケートの統計分析については南山大学理工学部鈴木敦夫教授に助言を受けたのでここに感謝します。

### 参考文献

- 1) 青木千佳：保育現場で生かせる音楽の力量～保育者養成校におけるピアノ奏法～、音楽指導論集、第1巻 (2012)、上田女子短期大学、pp.29-31.
- 2) 本間千尋：日本におけるピアノ文化の普及—高度経済成長期の大衆文化を中心として—、慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要、No.74 (2012)、pp.33-54.
- 3) 伊藤充子、小林田鶴子、佐地多美：教員養成課程をもつ大学における音楽教育の一考察 (その5)、名古屋女子大学紀要56 (人・社) (2010)、pp.75-86.
- 4) 仲嶺まり子：保育現場における音楽教材の調査、別府大学短期大学部紀要、第16号 (1997)、pp.109-118.
- 5) 中野研也、河野久寿：保育現場で必要とされる音楽能力と幼児音楽教育との関連、仁愛女子短期大学紀要、第44号 (平成23年)、pp. 71-78.
- 6) 山本祐子、小杉裕子：小学校教員養成課程のピアノ指導を考える—現職小学校教員の授業実践の現状に着目して—、椙山女学園大学教育学部紀要、Vol.5 (2012)、pp.35-45.
- 7) 吉村淳子、芝崎美和：保育者養成におけるピアノ指導について—学生の自己効力感に着目して—、新見公立大学紀要、第36巻 (2015)、pp.59-66.